

# やまのいも（ヤマノイモ科）

## 【特徴】

やまのいも類は、形状によってながいも、いちょういも、つくねいもなどと呼ばれる。これらと比べると、つくねいも、いちょういも、ながいもの順に、する下ろしたときの粘りが強く、変色しにくい。つくねいもは、高級菓子の原料にも使われる。

やまのいもは高温性の作物で、生育には17～20℃以上が必要である。日照量はできるだけ多い方がよく、日当たりのよいほ場がよい。

## 【作型と品種】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主な品種	
作型														
露地				○	—————						□			ながいも、いちょういも、つくねいも

## 【作り方】

### 1. ほ場の準備

土づくりと基肥

有機物を多く入れて、透水性、通気性をよくする。1か月前までに、完熟堆肥、苦土石灰、B Mようりんを全面散布しよく耕しておく。

初期成育は種いもの養分をつかうので、追肥に重点がおかれる。

うねづくり

定植の2週間前までに基肥を施用し畦をつくる。1条植えで畦幅80cm、2条植えでうね幅140cmを基準とする。排水不良地は高畦とする。

### 2. 種いもの準備

種いもは無病のものを使う。種いもの大きさは、ながいもで100～150g、いちょういもやつくねいもで50～80g。

先端部分を除いて、切り口を十分乾かしてから植え付ける。切断面には草木灰をつけておくとよい。